

# 問う、聞く、開く

大学を卒業して仙台の新聞社に入り、8年目を迎えます。これまで本社スポーツ部、小牛田（宮城県美里町）、いわき両支局に勤務しました。現在は本社で東日本大震災全般を担当しています。

2011年3月から震災が最大のテーマになりました。いまでも当時の状況を検証し、課題を浮き彫りにする作業を続けています。最も重要なのは、遺族や被災者の話に耳を傾けることです。ニュースになる要素は、なにげない一言に潜んでいます。発問し、相手から答えを引き出し、みんなで共有すること。大学で学んだ授業法と通じるものがあるように思います。

福島第1原発事故が頭から離れません。どうして東北の土地が汚されなければならなかったのか。政府と電力会社はいかにして失敗したのか。償いは十分か。他の原発はどうするのか。記者である限り、追及していかなければならない課題です。

記者を志望したのは大学3年時、福島県柳津町と昭和村で行われた社会学のフィールドワークに参加したことがきっかけです。地元の方へのインタビューや地場野菜を味わった経験などを通して、東北の山村が持つ魅力に目を見開かされました。都市とは異なる時間の流れ、固有の価値があることを伝えたい。東北を取材し、記事を書き続ける原点になっています。

フィールドワークをきっかけに、野球ばかりやっていた私も少しは勉強に力を入れるようになりました。宮教大はほぼすべての教科に教員を輩出しています。人文科学、社会科学、自然科学の広い分野にわたって講義や実習を用意し、選択の自由度も高い。学生数は多くなく教員との距離も近い。早くから学ぶ気になれば、もっともっと教養を深められたらと後悔もちょっとあります。



Person 08

河北新報社 編集局 報道部記者

## 野内 貴史

Takafumi Nouchi

- 2007年 学校教育教員養成課程(T課程) 社会科教育専攻 卒業

